

学校における児童生徒の自殺関連行動 発見時のチームとしての対応【事例編】

こどもたちの危機を発見し、
連携可能な関係機関（保護者含め）を招聘し、
支援の方針・役割分担を行う。

支援の経過を共有し、
状況に応じて方針・役割分担を修正・変更し、
新たな課題に応じて支援チームを拡充する。

<事 例>

世帯の状況

- 祖父（父方）
- 祖母（父方）
- 本人（中学2年生）
- 父（海外勤務）

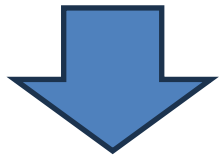
<離婚して別居>

- 母（外国人）
- 弟（次男・小学生）
- 弟（三男・小学生）

＊個人情報については加工しています

希死念慮の認知

- ①本人（中学2年生）が、SNSのステータスに「消えてしまいたい」との書き込みをする。
- ②友人がその書き込みを発見し、自身の保護者と相談
- ③友人の保護者が学校に連絡



「SOSの出し方に関する教育」の成果

★学校としての対応を開始



皆様の教室で、このような事案が発生した場合
どの様に対応をしていくでしょうか？

児童生徒の自殺関連行動を発見した際の初動対応

情報の把握（誰かが自殺の危機に気付く）

- ・自殺をほのめかす会話や発言、メモや絵、SNS等ネットへの書き込み
- ・保護者や友人等からの自殺の危機や、心配についての連絡
- ・自傷行為
- ・大量服薬 など

他機関からの情報収集

【要保護児童対策連絡協議会として】

- ・要保護児童対策地域協議会から虐待歴等（家庭の状況）を収集
- ・教育相談室等から相談履歴等の確認



生命の危険あり

警察・救急へ

校長へ迅速に報告

校長による報告（第一報）

教育委員会事務局
（指導主事へ）

校内の危機対応組織の招集

- ・生徒指導主事・教育相談担当、学年主任、担任、養護教諭、生徒と関りの深い教員、スクールカウンセラー等による協議
- ・必要に応じて緊急ケース会議の実施

①事実関係の確実な把握

- ◆多方面からの情報収集
→聞き取りの他、アンケートの記述や作文、制作物
- ◆いじめの有無
- ◆教師の指導内容

- ・スーパーバイザー派遣検討
- ・情報共有
- ・助言
- ・関係機関との連携

情報の把握〔すぐ、やるべきことの全体像〕

- ①情報をくれた生徒（友人）のスマートフォンでSNSのステータスの確認。
- ②教育委員会（指導主事）への第一報
- ③小学校からの引継ぎ内容の再度の確認
 - 小学校高学年で、母と別居し、祖父母と同居。
 - 母の下から通学していた学校でいじめがあったため、転校したとの記録

情報の把握〔すぐ、やるべきことの全体像〕

④ 要保護児童対策地域協議会との連携（情報収集）

- 小学校低学年の時、父と母が離婚
- 離婚後、母と兄弟と暮らしていたが、生活保護を受給するなど、要保護家庭となる
- 突然、家族で海外移住することに（母の都合）
- ここで、要保護児童対策地域協議会との関係が切れる

⑤ 転校前の小学校からの情報収集

- 数年前、帰国（他県に居を構える）。
- いじめられたときのトラブルで、事実として確認できたものは、1回のみ（校庭での喧嘩）。

ワーク1：聴き取りの実際 [10分]

対象者	どのようなことを確認する必要があるのか
通報してく れた友人	
本 人	
保護者 (祖父母)	
その他	

情報の把握〔友人から〕+友人支援

- ①情報をくれた生徒（友人）のスマートフォンでSNSのステータスの確認。
- ②その他、友人から最近の気になる様子等について、聞き取りを行う。
- ③さらに、LINEでつながっている他の生徒を確認し、その生徒たちとの面談を計画（生徒の保護者への許可を得る）する。
- ④生徒たちには、学校が責任をもって対応することを伝え、気になること等あれば、いつでも、相談できることも伝える。

情報の把握〔本人から〕+ 本人支援



- ① 本人との面談を担当と学年主任で行う。
- ② SNSのステータスへの書き込みの内容について確認をする。学校生活や家族等のことでの困り感などについて話をする
- ③ 希死念慮について、本人も認める。
「クリスマスまでには死んでしまいたい」
- ④ 原因やそう思ったきっかけについては、話さない。
- ⑤ 祖父母にも、そう思っていることを伝えることについて承諾してくれた。(母については、拒否された)
- ⑥ 定期的なスクールカウンセラーとの面談も受け入れる。

情報の共有〔祖父母から〕+保護者支援

- ①面談を担当と学年主任で行う。
- ②希死念慮があることを伝える。
- ③原因やきっかけについては、不明。
- ④家庭内の危険物等の撤去
- ⑤明日以降の、登下校の受け渡し
(時刻を少しずらし、祖父母と登校、教員と下校)
- ⑥非常の際の連絡先(学校側)の通知
- ⑦スクールカウンセラーとの定期面談・相談の設定
- ⑧医療機関の受診について

★面談終了後、本人と一緒に下校

児童生徒の自殺関連行動を発見した際の初動対応 つづき①

校長へ迅速に報告

校長による報告（第一報）

教育委員会事務局
（指導主事へ）

校内の危機対応組織の招集

- ・生徒指導主事・教育相談担当、学年主任、担任、養護教諭、生徒と関りの深い教員、スクールカウンセラー等による協議
- ・必要に応じて緊急ケース会議の実施

①事実関係の確実な把握

- ◆多方面からの情報収集
→聞き取りの他、アンケートの記述や作文、制作物
- ◆いじめの有無
- ◆教師の指導内容

- ・スーパーバイザー派遣検討
- ・情報共有
- ・助言
- ・関係機関との連携

②緊急対策会議の実施

- ◆収集することができた情報の共有
- ※いじめの有無
- ※教師の指導内容

※必要に応じて
外部機関を招聘

★具体的対応策の決定

当該児童生徒への対応

当該児童生徒の保護者への対応

周囲の児童生徒の対応

緊急支援会議でのポイント

ポイント	誰が中心になって行うのか（連携先）
本人のケア	
医療連携	
家庭の支援	
周囲の生徒 のケア	
その他	

外部機関との緊急対策会議

<課題の明確化と役割分担>

①本人のケア

→ 祖父母と担任/学年主任

→ スクールカウンセラーとの定期面談

②医療へのつながり

→ 保健所・保健師

③家庭に対する支援

→ 要保護児童対策地域協議会

④他の生徒のケア

→ 学年の教員

⑤本人のこだわりの強さ
／発達障害？

→ 教育委員会特別支援教育係

⑥原因・きっかけの解明

「なぜ、クリスマスなのか」
の解明



緊急対策会議（その後の進捗管理）

①本人のケア	→ <u>スクールカウンセラーとの定期面談</u> が実現
②医療へのつながり	→ <u>予約を取るのに数か月待ち</u>
③家庭に対する支援	→ <u>要保護児童対策地域協議会</u> → <u>担当者を明確にし、祖父母と連絡をとれるようにした。</u>
④他の生徒のケア	→ <u>学年の教員</u> が実現
⑤本人のこだわりの強さ ／発達障害？	→ <u>教育委員会特別支援教育係</u> → <u>特別支援教室の活用</u>



緊急対策会議（その後の進捗管理）



⑥原因・きっかけの解明

「なぜ、クリスマスなのか」の解明

- ◆ クリスマスイブに、母の家でクリスマスパーティが計画されていることが判明 → これに参加したくない
- ◆ 母と海外生活を行ったとき、言語の関係で、学校で学ぶことができなかった。
- ◆ 母は、勉強に対して、厳しい
→ 母が原因・きっかけであることが判明
など、新たな情報を本人等から得ることができた。

緊急対策会議（その後の進捗管理）

⑦祖父が心労で倒れる（入院）

⑧父が海外から帰国



◆父と本人がじっくりと話す時間を確保。

母の言いなりにならなくてよかった。

◆クリスマスパーティは、欠席することに

◆成績や進学についても父が寛容に



児童生徒の自殺関連行動を発見した際の実際の動き

当該児童生徒への対応

◆当該児童生徒の支援

- 保護者（祖父母、父）
- 学校
 - ・スクールカウンセラー
 - ・担任、学年主任
 - ・特別支援教育担当（巡回指導）
- 医療機関（準備は進めた）

一人にしない、安心させる、傾聴する

- ◆児童生徒のペースに合わせて話を聞く、安心させること
- ◆安全確保
- ◆再発防止に向けた心理教育の実施
- ◆確実な見守り
 - ・見守り体制の確立
 - ・一人で下校させない
 - ・定期的なスクールカウンセラー面談

<ストレスの低減>

- ◆母との関係の修復 → 父より母への状況説明
 - ◆進学/進路のサポート → 幅広い進路選択と適合性の高い進学先の選定
 - ◆特別支援教育 → 本人の拘り、思い込みの解消、多面的な見方・考え方
- ### <安心感の提供>
- ◆いつでも相談できる体制の提供

当該児童生徒の保護者への対応

◆保護者支援

- 学校
 - ・スクールカウンセラー
 - ・担任、学年主任
- 子ども・家庭支援センター

希死念慮の原因が
保護者である場合に該当
(子家セン、児相の情報が必要)

- ◆情報共有と相談
- ◆背景事情の把握
- ◆自宅における見守り体制の確認
 - ・家庭内危険物の除去
- ◆翌日以降の登下校の方法を確認
- ◆医療関係についての情報提供
- ◆要保護対策児童地域協議会等の支援情報の提供

周囲の児童生徒への対応

◆周囲の児童生徒支援

- 学校
 - ・学年主任、学年担当
- 各生徒の保護者

- ◆影響を受けそうな児童生徒への配慮と心理教育（SCとの密接な連携）
 - ・定期的な面談
- ◆各生徒の保護者との共通理解・連携
- ◆友人間の調整